

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270104054
法人名	社会福祉法人 啓正会
事業所名	グループホーム モン・サンあぜかり
所在地	長崎県長崎市豊洋台1丁目3番1号 (電話) 095-840-1070
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成19年 2月25日

【情報提供票より】 (平成20年 1月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	15 人 常勤15人, 非常勤 0人, 常勤換算15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 1～3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000～15,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要 ( 2月 7日現在 )

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	13 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	64 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	清水病院 米田けんじ歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高台に立地するホームは見晴らしよい。職員は地域密着型のホームを目指すために、「あいさつ・声かけ」を目標とし、職員一丸となって積極的に交流をはかっている。また介護理念を実践するために「笑顔」を職員が目標と掲げている。利用者は各々の生きがいを感じ、日々の生活の中で互いに支えあう関係になっている。また職員を育てる取り組みとして内部研修が毎月開催され大学から講師を招いての講演会や身近に役立つ口腔ケア、応急手当の講習会などを行っている。職員が興味を持つように現場の希望を吸い上げテーマを決める工夫をしているなど積極的な姿勢は事業所の優れている特徴である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は会議で報告し改善に向けての話し合いをし、検討して取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の作成は管理者と各ユニットのリーダーによって作成されている。自己評価の意義は職員へミーティングで話があり、各項目の意見の取りまとめは各ユニットリーダーとの間で行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	概ね4ヶ月に1回の開催を予定しているが、まだ実施されていない。構成メンバーは家族代表、住民、長崎市担当、事業所を予定しており、現在第1回の開催に向けて日程調整している段階である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時には必ず利用者の近況報告をし、要望や希望の聞き出しを行ったり、家族からの電話や電話での近況報告の時に意見や要望を聞いている。玄関に意見ボックスを設置している。アンケートを配布し意見や希望を収集しようと試みるなど工夫をしている。要望はミーティングで検討し運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム開設時に地域向けに見学会を行っている。開園記念の餅つきには町内の住民へ参加を呼びかけたり、餅を配ったりしている。町内清掃、草刈には職員が参加し、利用者の散歩時には挨拶を欠かすことなく交流を深める努力を行っている。大瀬戸ふるさと祭りや夏祭りに利用者に参加している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成16年に理念をよりわかりやすくした4つの介護の心がけを作成し、中でも「楽しく、やさしく、元気よく」を合言葉にいつも笑顔でをモットーとして、地域の中であいさつをし、結びつきを大切にしていくことを常に話し合っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や介護の心がけをホーム内の目に付くところに掲示している。又、常に意識を共有するためにミーティングや会議などで介護姿勢と理念とのかわりを話し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム開設時地域向けに見学会を行っている。開園記念の餅つきには町内の住民へ参加を呼びかけ、餅を配っている。町内清掃、草刈には職員が参加し、利用者の散歩時には挨拶を欠かすことなく交流を深める努力を行っている。大瀬戸ふるさと祭りや夏祭りに利用者も参加している。小学校では授業の一環としてホームの見学や施設長がグループホームの話を学校で行ったりしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は会議で報告し改善に向けての話し合いをし、検討して取り組んでいる。自己評価作成は各ユニットリーダーが主に作成し職員がわかる部分は尋ねて参考にした。自己評価、外部評価の意義は職員は理解している。	○	自己評価は、自身の介護支援の確認のために役立つと考え、各職員が作成し、会議で話し合うなどの取り組みに期待したい。

グループホーム モン・サンあぜかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね4ヶ月に1回の開催を予定している。構成メンバーは家族代表、住民、長崎市担当、事業所を予定しており、現在第1回の開催に向けて日程調整している段階である。	○	予定通りに第1回を開催し、継続することが望まれる。おおむね4ヶ月に1度開催の予定としているが、2カ月に1度の開催を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	長崎市すこやか支援課より研修・講習会などの情報提供や介護相談など、担当者との連絡を密に取れるよう取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には必ず利用者の近況報告を行っている。遠方の家族には電話や担当職員の手紙などで報告している。毎月発送する「あぜかり通信」には楽しいイベントの写真や暮らしぶりが紹介されている。預かり金は金銭出納で管理し家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話の時に意見や要望を聞き、玄関に意見ボックスを設置している。また有効な意見は出なかったが、アンケートを配布し意見や希望を収集しようと試みるなど工夫をしている。要望はミーティングで検討し運営に反映している。ただし、苦情の内部窓口は設置されているが、外部窓口の表記がなく家族への説明ができていない。	○	苦情外部窓口の設置は検討中であり、窓口が決まり次第、事業所内への掲示、重要事項説明書へ明記と苦情解決の流れについても家族への説明を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を保つために、異動は最小限になるように努力されている。やむをえない場合は利用者のダメージを軽減することを優先し他の職員がカバーするなどの配慮がなされている。		

グループホーム モン・サンあぜかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月末に開催され大学から講師を招いての講演会や身近に役立つ口腔ケア、応急手当の講習会などを行っている。職員が興味を持つように現場の希望を吸い上げテーマを決める工夫をしている。新人研修では接遇なども行われている。外部研修は通知があるたびに職員に知らせ、受講希望者は行けるように配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は長崎市グループホーム連絡協議会の研修に参加し他ホーム職員との意見交換や親睦会に参加し交流する機会がある。また法人全体での事例検討が行われており、系列の他ホームの職員とも話し合い質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院などからの紹介で利用者との面談を行い、興味のあるような話をしながら生活歴やその他の情報、要望を把握している。まずは安心して生活するように職員が見守りながら無理なく馴染んむようにしている。慣れるまでは家族の付き添い協力も得ている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いに近づけるように、利用者の事をよく知ることに努めている。日々の生活の中で生活の知恵や掃除の仕方、料理の味付け、物の大切さを利用者から学ぶことが多くあり、互いに支えあう関係になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いは本人と接しながら会話や表情から把握するよう努めている。意思疎通が困難な方には家族の協力を得ながら、家族と職員で話し合いながら検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人に要望や一日の過ごし方を尋ね、担当医からの意見もふまえ、月初めにケアマネジャーと職員が意見交換を行い利用者の課題となることを話し合い「ケアプラン表」作り直しながら作成している。介護計画は家族の訪問時の面会や送付で意見交換し確認をしてもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居直後は長期プランを3ヶ月とし細かに対応できるようにしている。また通常は長期6ヶ月短期3ヶ月としている。業務日誌、申し送りノートなど、利用者の様子・気づきを日々わかりやすく記入されており、変化に応じ随時職員全体で見直しを行い、家族へ提案をし意見を聞き見直しを行っている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じた、利用者の好きな店への買い物、専門病院への受診支援、週一度のドライブ、美容室他利用者との平等性をなくさないように心掛けながら支援を行っている。		

グループホーム モン・サンあぜかり


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族、利用者に希望を聞き、24時間医療体制の面からも協力医療機関である運営母体の病院をかかりつけ医としている。定期的な受診を行い早期治療を行っている。夜間の緊急対応も対応されている。なお、皮膚科、歯科などについては受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に係る指針」が作成されており、家族へ説明している。利用者の最善の方法を主治医、家族、職員で話し合いの場をもち検討し決めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は採用時に秘密保存に関する誓約書を作成し提出し、プライバシー保護を遵守している。個人日誌などは人の目に触れないよう保管しており、ホーム便りの写真掲載は家族の同意書がある利用者に限っている。利用者に対する言葉遣いは尊敬の念を持ち注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、身体チェックをして体調の変化に気をつけている。利用者の意思を最優先し心掛け、生活習慣を継続できるように支援している。そのため職員間では詳細な報告、申し送りノートを活用している。		

グループホーム モン・サンあぜかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は残存能力を活かし料理の下ごしらえなどを手伝っている。食事は利用者の状態に応じた調理法で提供している。職員も同じものと同じテーブルで会話を楽しみながら、見守り支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の健康状態、意思を重視しながら入浴支援している。入浴日は週3回で各フロアがかぶらないように行われ、入浴拒否があっても次の日に別階で入浴できるように支援されている。利用者一人に職員一人が付いて支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌を歌ったり、洗濯物たたみ、食器拭き、散歩など利用者一人ひとりの楽しみごと、役割などを考え体調やその日の気分をみながら無理のない支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺を利用者と散歩を季節に応じて行っている。車椅子の方は職員のローテーションを組み支援し、利用者が室内に閉じこもらないように外気に触れる機会を作っている。買い物やドライブも行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は常に鍵をかけることなく、自由に行き来できるようにしている。建物の玄関は車道に面しているため事故防止と安全性の確保から家族の承諾得て、内部からはボタンを押してから玄関ドアが開くようにしている。		

グループホーム モン・サンあぜかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いのもと避難訓練を利用者も参加して行われている。消防訓練報告書が作成保管されている。地域の協力体制については日中留守の家庭が大半で参加は難しいが、協力を得られるように日頃から声かけはしている。ただし、避難経路や避難マニュアルが作成されていない。	○	緊急の際に必要な避難経路や避難マニュアルの作成を期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立が作成されており栄養バランスには配慮している。糖尿病の利用者は週1回医師に報告し、指導を受けている。水分量は1L以上を目標に支援し、食事量、水分量とも摂取量は記録されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く開放感があり、高台にあるため見晴らしも良く明るい。掃除が行き届いており、清潔である。ソファや食卓テーブルなどの配置も利用者の気分で穏やかに過ごせるよう配慮している。職員の会話もテレビの音量も適度であり、利用者の作品や習字、季節を表現した飾り付け、思い出の写真が飾られ、居心地よい空間が出来ている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具や品物を持込まれ、それぞれの部屋が個性的に利用されている。手伝いが必要な場合は利用者の要望を聞きながら手伝いをし清潔を保っている。		

※  は、重点項目。